

2017年7月12日

支部ラグビーフットボール協会
普及育成委員長殿

(公財)日本ラグビーフットボール協会
普及・競技力向上委員長
山本 巧

U-15 ジュニアラグビー競技規則等に関する通知

(公財)日本ラグビーフットボール協会(以下「JFRU」)という)では、U-15の中学生プレーヤーについて以下の事項について再度確認し、その適用と運用の周知徹底をお願いいたします。

中でも、3. ラインアウト(その2) 【7人制共通】 “ラインアウト時において、**飛び上がったプレーヤーに対して…**”の事項は、**＝特別措置＝**として実施いたします。

(本事項は、JRFU主催のU-15中学生プレーヤー対象大会の大会規定としても明記されます。)

なお、下記を含む、全ての各事項についても同様に「**本 U-15 ジュニアラグビー競技規則 2015**」等を確認の上、厳格履行をお願いいたします。

「基本原則」の確認

13歳～15歳時期(以下総称で使用する場合は「U-15」という。)の中学生プレーヤーについては、WRが定める「WR競技規則(含む『19歳未満標準競技規則』)を、7人制競技においては含む『7人制標準競技規則』)に準拠し、同時に(公財)日本ラグビーフットボール協会の定める高専、高校以下のための国内特別競技規則に関してはその趣旨を認識し準拠しています。

その中で、“U-15”に適用する独自の競技規則は、「**本 U-15 ジュニアラグビー競技規則 2015**」で規定し、それと同時に「**U-15 ジュニアラグビー中学生安全競技基準**」、「**U-15 ジュニアラグビー・中学生選手服装規程**」の徹底運用をお願いしています。本事項は男女性別を問いません。

「通知事項」

1. 「ローヘッド：【7人制共通】」

第10条 不正なプレー、10.4 危険なプレー、不行跡として、**“いずれのプレーヤーもモールへの参加を含む全ての局面において頭を肩や腰より低く(ローヘッド)した状態でプレーすることはできない”**として禁止しています。 **罰：ペナルティキック**

☆ 全ての局面において、ローヘッドを禁止していますので、当然、ラインアウト時も適用されます。

2. 「ラインアウト」

第 19 条 タッチおよびラインアウト 19. 10 ラインアウトにおける制限【7 人制共通】
(g) プレーヤーを地上におろす：では“飛び上がったプレーヤーの両足が完全に着地するまで続けなければならない”と規定しております。 **罰：15 m ライン上でフリーキック**

☆ これは選手の安全を担保する為の措置ですので、相手方のプレーヤーは、飛び上がったプレーヤーが完全に着地するのを待って、タックルすることとなります。

3. 「ラインアウト(その2) 【7 人制共通】」 **＝特別措置＝**

前述の 1. 及び 2. に鑑みて、プレーヤーの安全を最優先し、特別措置として、ラインアウト時において、飛び上がったプレーヤーに対して、そのプレーヤーが完全に着地した後に、相手方プレーヤーがタックルする場合、臀部(デンプ)よりも上部とし、それよりも下のタックルは禁止いたします。 **罰：ペナルティキック**

☆ この場合、タックルするプレーヤーは、ローヘッドにならないよう正しいタックルの履行が不可欠です。

※ <参考>「U- 15 ジュニアラグビー中学生安全競技基準」で規定している 2. 「体力強化及び技術的指導による安全確保」 (4) タックルするプレーヤー (以下タックラーという。含むセカンドタックラー) ⑥以下のタックルは厳に慎む…を履行して下さい。

4. 「スクラム (その 1) 」

第 20 条 スクラム 20.1 スクラムの形成 (k) 【Original ⑧】 安全でしっかりとしたスクラムの形成：【7 人制共通】では、各カテゴリーのプレーヤーのスキルの習熟度に応じて安全でしっかりとしたスクラムを形成しなければならないとしています。U-15 については、(1) “U- 15 カテゴリーでのスクラムは安全を確認した上で、しっかりと組み、かつ体重をかけあう”と記載し、同年代では、安全を確認した上で、しっかりと組み、かつ体重をかけあうことを原則としています。 **罰：フリーキック**

☆ この為、故意、或いは正当な理由がなく、しっかりと組み合わない、或いは体重をかけた等の行為はできません。

5. 「スクラム (その 2) 」

第20条 スクラム 20.3 スクラムのバインディング (f) 他のすべてのプレーヤー（ロックのバインド） (g) ロック（その他の禁止行為）、では、スクラム時のロックについて以下の通りに規定しています。 **罰：ペナルティキック**

☆ 本規定（下記）の厳格履行をお願いいたします。

(f) 他のすべてのプレーヤー（ロックのバインド）：ロックは、スクラムが組まれる前に、一方の腕を味方ロックに必ずバインドし、かつ外側の腕は必ず前にいるプロップの腰をまくようにバインドしなければならない。同時に膝を上げて、頭を落とさないようにフロントローの間に確実にに入れて組まなければならない。プロップ以外のプレーヤーは、相手側のプレーヤーをつかんではならない。

(g) ロックは、規定どおりバインドしていたとしても、腰や膝を落としたり、外側に開いたり、あるいはスクラムの角度を変えることはできない。当然に相手側のスクラムハーフのプレーを妨害してはならない。

※＜実施時期＞ 上記の実施時期は以下の通りです。

- 1) 1. 2. 4. 5. 「**競技規則の厳格履行**」（ガイドライン）は、**即日実施**いたします。
- 2) ※ 3. の=**特別措置**=については、**2017年8月1日から実施**いたします。

以上

2017年7月31日

関東ラグビーフットボール協会

普及育成委員長 大山 文雄 殿

関西ラグビーフットボール協会

普及育成 (U15・中学女子) 委員長 酒井 弘明 殿

九州ラグビーフットボール協会

中学生委員長 鶴田 善弘 殿

(公財)日本ラグビーフットボール協会

普及・競技力向上委員長 山本 巧

(公 印 省 略)

ワールドラグビー試験的ルールの実施について (通知)

拝啓、平素より日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

(公財)日本ラグビーフットボール協会(以下「JFRU」)という)では、U-15 ジュニアラグビーにおけるワールドラグビー試験的ルールの実施時期について、下記の通りといたします。貴協会におかれましても管下都道府県協会、及びチームに対して周知徹底をいただけますよう、お願い申し上げます。

敬具

記

U-15 ジュニアラグビーにおける
ワールドラグビー試験的ルールの実施時期について (通知)

実施施行日：平成 30 年 1 月 1 日

(参考)

試験的ルールの実施に関する解説資料も準備されており、以下のリンクからダウンロードしてください。(資料は英文)：

http://laws.worldrugby.org/index.php?domain=20&language=EN&utm_source=World+Rugby+Press+List&utm_medium=email&utm_campaign=170719

以上

日ラグ協発第 16-704 号

平成 29 年 2 月 1 日

関東ラグビーフットボール協会

会長 水谷 眞 様

関西ラグビーフットボール協会

会長 坂田 好弘 様

九州ラグビーフットボール協会

会長 森 重隆 様

(公財)日本ラグビーフットボール協会

専務理事 坂本 典幸



ワールドラグビー世界的試験実施ルールについて(通達)

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、ワールドラグビーよりこのほど、下記の通り世界的試験実施ルールに関する通達が出されました。

日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。

貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

IRB 世界的試験実施ルールに関する通達

ワールドラグビーは、2016 年 11 月 16 日に行われた特別・中間理事会において、次ページに記す世界的試験実施ルールを承認した。ワールドラグビーのメンバー協会は、南半球では 2017 年 1 月 1 日より、北半球では 2017 年 7 月 1 日より、また、6 月のテストマッチウィンドウにおいて、実施すること。

参考資料: ワールドラグビーウェブサイトリンク

・ 競技規則 2017 年版(PDF 版) <http://laws.worldrugby.org/index.php?&language=JA>

以上

世界的試験実施ルール

(南半球では1月1日、北半球では7月1日より施行)

第3条 プレーヤーの人数 - チーム

3.6 (アンコンテストスクラム)

以下の条文を追加：

(h) 退場、一時的退出、または、負傷によるアンコンテストスクラムは、両チーム8名ずつで行われなければならない。

根拠：チームがアンコンテストスクラムを利用しないようにするため。

第5条 時間

5.7(e)に以下の条文を追加：

時間が経過した後、ペナルティキックを直接蹴り出した場合、レフリーはボールの投入(スローイン)を認め、次にボールがデッドになるまでプレーは続行する。

根拠：チームが試合終了間際に反則をしないようにするため。

第8条 アドバンテージ

8.1(a)に以下の条文を追加：

同じチームによる複数の反則が生じた場合、レフリーは、反則をしなかった側のキャプテンに最も有利なペナルティの地点を選ばせることができる。

根拠：すでにアドバンテージが適用されている状況で違反が繰り返されないようにし、反則を繰り返した側ではないチームに報いるため。

第9条 得点方法

9.A.1 (得点の種類)

ペナルティトライ：相手側の不正なプレーがなかったならば、ほぼ間違いなくトライが得られたものと認められた場合は、ペナルティトライが与えられる。コンバージョンは行わない。 得点：7点

根拠：チームが競技規則に反してトライを妨ぐことがないようにし、かつ、コンバージョンをなくして時計の時間を節約するため。

第19条 タッチおよびラインアウト

117 ページの定義に、以下を追加：

・ボールを支配しようとしているプレーヤーは、ボールを保持しているとみなされる。

根拠：これは、実際にはすでに適用されていることを競技規則で条文化したものである。ボールを「ファンブルしている」時、または、している状態は、ボールを保持していることになり、再びキャッチすると同時にタッチに出ればタッチであるとみなされる、ということの意味する。この条文追加により、マッチオフィシャルが判断をしやすくなる。

117 ページの8つ目の定義を変更：

・プレーヤーが競技区域から跳び上がり、タッチ、または、タッチインゴールに着地する前に、ボールを競技区域へ跳ね返した(または、そのプレーヤーがボールを捕り競技区域へ投げ戻した)場合は、ボールがタッチ上の立平面に到達してもしなくても、プレーは続行する。 根拠：競技規則を簡略化し、ボールがプレーされている時間を増やすため。

117 ページの定義に、以下を追加：

・ ボールキャリアがタッチ上の立方面に到達したが先にタッチに出ることなく競技区域にボールを戻した場合、プレーは続行する。

根拠：競技規則を簡略化し、ボールがプレーされている時間を増やすため。

117 ページの 6 つ目の定義に以下を追加：

・ このとき、ボールがキャッチされたときにタッチ上の立方面を通り過ぎている場合、ボールをキャッチしたプレーヤーはボールをタッチに出したとはみなされない。ボールがキャッチされた、または、拾い上げられたときにタッチ上の立方面を通り過ぎていない場合、ボールが動いていても止まっても、ボールをキャッチしたプレーヤーはボールをタッチに出したとみなされる。

根拠：競技規則を簡略化し、ボールがプレーされている時間を増やすため。

第 3 条の改正については 15 人制のみについてだが、その他の試験実施ルールはすべて 15 人制と 7 人制に平等に適用される。

さらに、7 人制のみにおける競技規則の変更として、以下の試験実施ルールが承認された：

・ 決勝戦は、各ハーフ 7 分を超えてはならない（プレーヤーウェルフェアのため - 負傷の数の多さが決勝戦の後半に偏っていることを示す証拠がある。1 分間あたりの負傷数をみると、決勝戦の後半が、前半、および、各ハーフ 7 分で行う通常の 7 人制の試合と比べて多い）。

・ レフリービデオリファール (RVR) をフィールド上のレフリーに手渡して、TMO 判断を行うことができる - スクリーンを見てコールを行うのがしばしば困難であることから)。RVR のプロトコルは変更しない。TMO は、大会レフリーの予備要員の一人が務める。

・ 試合再開のキックは、ペナルティキック、または、ドロップゴールが行われ成功もしくはデッドとなってから 30 秒以内に行われなければならない。

・ 両チームとも、レフリーがボールの投入位置を示してから 15 秒以内にラインアウトを形成しなくてはならない。

・ 両チームとも、レフリーがスクラムのマークを示してから 15 秒以内にスクラムが形成できる状態になっていなければならない。

・ ペナルティキック、または、フリーキックは、与えられてから 30 秒以内に蹴られなければならない。

日ラグ協発第 17-314 号

平成 29 年 7 月 22 日

関東ラグビーフットボール協会

会長 水谷 眞 様

関西ラグビーフットボール協会

会長 坂田 好弘 様

九州ラグビーフットボール協会

会長 森 重隆 様

(公財)日本ラグビーフットボール協会

専務理事 坂本 典



ワールドラグビー試験的ルールの実施について(通達)

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、ワールドラグビーよりこのほど下記の通り試験的ルールの実施に関する通達ならびにプレスリリースが出されました。

日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。

貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

試験的ルールの実施に関する通達

ワールドラグビーの執行理事会は、定款に従い、また理事会の代理として、添付文書 1 に記す試験的ルールの実施を承認した。

今回承認された試験実施ルールの施行日は、以下の通りである：

- ・ 北半球 - 2017 年 8 月 1 日
- ・ 南半球 - 2018 年 1 月 1 日

この試験的ルールは、直近に開幕を控えている女子ラグビーワールドカップには適用されない。しかし、北半球ウィンドウの試合は、この試験実施ルールのもとで行われることとなる。

この試験的ルールの実施は、競技のプレー、および、レフリングをするにあたりよりシンプルにすること、また、プレーヤーウェルフェアをさらに推進することを目的としている。

試験的ルールの実施に関する解説資料も準備されており、以下のリンクからダウンロードすることが可能である：

http://laws.worldrugby.org/index.php?domain=20&language=EN&utm_source=World+Rugby+Presst+List&utm_medium=email&utm_campaign=170719+DR+Global+law+trials

(資料は英文)

以上

付属文書 1

1. 競技規則 20.5 スクラムへのボールの投入、および、20.6 (d) スクラムハーフによるボール投入

レフリーからの合図は無い。

スクラムハーフは、まっすぐにボールを投入しなければならないが、スクラム中央の線に、自分の肩を合わせてよい、すなわち、スクラムハーフは、スクラム中央の線から自分の肩の分、自陣より立つことが許される。

2. 競技規則 20.9(b) スクラムにおける、その他の制限

ナンバーエイトは、セカンドローの足の下にあるボールを拾ってよい。

3. 競技規則第 20 条 スローイン後に足でボールに触れること

ボールがトンネル内の地面に触れた後は、双方のフロントローはボールを獲得するために、いずれの足も使ってもよい。ボールを投入するチームの一人は、ボールを取りに足を搔かなければならない。
罰則: フリーキック

4. 競技規則の修正 15.4(c)

タックラーは、ボールをプレーする前に、一度立ち上がらなければならない、また、タックルゲートの自陣側からプレーしなければならない。

5. 競技規則のブレイクダウン修正 第 16 条「ラック」

ラックは、少なくとも一人のプレーヤーが、両足で地面にある（または、タックルされたプレーヤーの上、タックラーの上にある）ボールをまたがって立つことで開始される。この時点で、オフサイドラインが形成される。両足で立ったプレーヤーは、すぐに行う限り、ボールを拾うことが許される。敵のプレーヤーが到着した瞬間、手の使用はできなくなる。

6. 競技規則 16.4 その他の反則

プレーヤーはラックの中のボールを蹴り出してはならない。プレーヤーはボールを自陣に向けて後ろ向きにかくことのみ許される。

施行日：

- ・ 2017年8月1日 北半球
- ・ 2018年1月1日 南半球